

[抵抗性ウンカ対策の切り札] [ピラキサルト™]

ピラキサルト™ 剤開発の経緯

イネを加害するウンカ類にはトビイロウンカ、セジロウンカ、ヒメトビウンカがおり、西日本や関東地方を中心に被害が報告されている。近年、これらウンカ類の殺虫剤抵抗性やヒメトビウンカが媒介するウイルス病が各地で問題となっています。このような状況を解決すべく、J A全農はデュポン・プロダクション・アグリサイエンス(株)とウンカ剤ピラキサルト™（有効成分名：トリフルメゾピリム）の共同開発を2011年より開始しました。ピラキサルト™ 剤は既存薬剤に感受性が低下したウンカ類にも優れた防除効果と長期の残効性を発揮する新しい殺虫剤であり、2019年2月より各社からピラキサルト™ 混合水稻箱粒剤が発売されています。なお「ピラキサルト™」とは本有効成分の通称です。

ピラキサルト剤の特長

① 優れた防除効果と残効性

ピラキサルト™ は育苗箱施用により長期の残効性を示します。

② 新しい作用性

ピラキサルト™ は新規の作用機構を持つメソイオン系殺虫剤です。IRAC（殺虫剤抵抗性対策委員会）の分類ではグループ4の新サブグループである4Eに分類されています。既存殺虫剤抵抗性の一因である解毒酵素は、新規化合物であるピラキサルト™ に影響を示さないことから、既存薬剤抵抗性ウンカにも効果を発揮します。

③ 速やかな効果発現

ピラキサルト™ はウンカ類に対して速効的に効果を示すことで、吸汁による被害および害虫により媒介されるウイルス病の感染を効果的に抑制することができます。

TM が付記された表示は、デュポン、ダウ・アグロサイエンスもしくはパイオニアならびにこれらの関連会社または各所有者の商標です。

